広島県下で発見されたラン科3種

唐　沢　耕　司

ユウシュンラン *Cephalanthera suhaphylla* Miyake et Kudo

昭和49年（1974）4月下旬，唐沢玲子氏(当時観音高校生）が遠足の途路三段峡で1個体採集した。同定の結果，ユウシュンランであったので，5月3日同行し自生状態を調査したところ，落葉樹林の林床に相当数，点々と開花していることが確認された。

本種は，草丈10cm程度の半腐生ランであるため目につきにくく，多くの人が訪れる地域であるにもかかわらず，本種の記録はなされていなかった。なお，その後，広島県下でも各地で自生が確認されている。標本は，広島大学理学部植物学教室と当園標本室に保存してある。

ユウシュンラン

イチヨウラン *Dactylostalix rigens* Rchb. f.

昭和55年5月初旬，新宅松男氏が発見，同定の依頼があった。筆者は5月13日現地を訪れ自生を確認した。自生地は広島県十方山。50～60年生のスギとヒノキの混生林の林床。当日日暮近くであったため広範囲にわたる調査はできなかったが，一か所に開花中の株が3株と，未開花株数株がみられた。本種は，温帯上部の針葉樹林の中に産する地生ランで，中国地方での記録はない。

花のみ2本採種し，1本は広島大学理学部植物学教室に，他の1本は当園標本室に収めてある。

イチヨウラン

イシヅチ（通称）

わが国のエビネ属では，しばしば天然雑種が発見され，開花期と分布域が重なる種においては，その発現はめずらしくない。ただし，エビネとサルメンエビネは一般に垂直分布域が異なり，開花期もサルメンエビネがややおそい。そのため今日まで両種の天然雑種と思われる個体の発見は少ない。

本天然雑種の最初の記録は，昭和34年四国の石鎚山系において発見されている。その後，いずれも四国において，数個体発見されている。

昭和52年（1977）網岡進氏から変ったエビネが自生していると連絡を受け，現地に同行し，調査したところ，イシヅチであった。県西部の海抜約650m，大きな岩が重なり合った急な谷筋で，川沿いの長さ約4m，幅1mほどの平らな岩の上に群生が見られた。開花中の数個体は，それぞれわずかずつ差が認められた。この雑種の群生する付近には開花初期のサルメンエビネが多数みられ，わずか20mほど下流の岸にはエビネの開花最盛期の株がみられた。

イシヅチ